

## CONTENTS:

- P1 FD・SDフォーラム開催、寄稿(1)  
 P2 初任教員向けプログラム実施、寄稿(2)  
 P3 教職員研修・学生ワークショップ開催、寄稿(3)・(4)  
 P4 2017年度前期授業アンケート結果報告

大阪工業大学FD委員会

## 全学FD・SDフォーラムを開催しました

2017年度第1回(通算24回)FD・SDフォーラム 7月28日開催

- テーマ ①「授業アンケートと成績データを活用した授業改善活動報告」  
 ②「ルーブリック導入事例報告」

- 講師 ① 棕平 淳 氏(本学総合人間学系教室 教授)  
 ② 橋本 渉 氏(本学情報メディア学科 准教授)  
 福島 拓 氏(本学情報メディア学科 講師)  
 大西 宏一郎 氏(本学知的財産学科 准教授)

- 場所 121教室(大宮キャンパス)、1104教室(梅田キャンパス)、  
 1305教室(枚方キャンパス)

今回は「授業アンケートと成績データを活用した授業改善活動報告」と「ルーブリック導入事例報告」の2テーマで、4名の先生方にご講演いただき、190余名の教職員が参加しました。

まずはじめは、工学部が2014~2016年度の3年間にかけて活動した事例を全学的に広めるために、その内容や成果をご報告いただきました。この活動では、授業アンケート結果と成績データを用いて、授業の自己点検のための「学習実態の可視化」を行い、「学科単位での綿密なFD活動」と「各種FD活動の連携による教育改善活動の組織化」を促進させました。

成績評価において、思考や判断、技能に対する評価項目や基準は、教員個々で個人差が生じがちです。情報科学部と知的財産学部からは、本学が目指す「成績評価の厳格化」に有効なルーブリックについて、これから導入を検討している教員の契機とするために、その実施事例をご報告いただきました。

今後もFD・SDフォーラムでは、学部・学科・授業単位の取組みをご報告いただき、大学全体で情報を共有する機会を提供します。



棕平 淳 教授



大西 宏一郎 准教授



橋本 渉 准教授



福島 拓 講師



## 寄稿(1)「FD・SDフォーラムに参加してー授業アンケートから授業改善へー」

工学部生命工学科  
教授

芦高 恵美子

授業アンケートは、学生からのメッセージとして真摯に受けとめ、私からのメッセージを学生にフィードバックしています。授業アンケートで重要なのは、その結果を授業にどのように繋げるのかという観点であると思っていました。しかしながら、単にアンケートの生データを漫然と読むだけでは、教員の受けとめ方もさまざまであり、戦略的な取り組みの必要性を感じていました。今回のフォーラムの1つのテーマは「授業アンケートと成績データを活用した授業改善活動報告」で、これまでの工学部全体の取り組みの総括として非常に興味深く拝聴しました。

授業アンケートの設問1~6の項目は、シラパス説明、授業進行、学生理解度の配慮、話し方の明瞭さ、板書や資料、授業内容であり、比較的授業改善に結びつけやすいものです。私自身もこれらの項目のアンケート結果をもとに改善した経験があります。今回、取り組みのツールとして、設問9の授業の満足度/充実度を取り上げています。授業アンケートと成績の関係から、授業の満足度/充実度と成績がある程度連動していることが示されました。学生の学習達成度を高めるには、学生が満足できる授業をすることが大切だということが、客観

的なデータからも明らかになったと言えます。ただ、授業の満足度/充実度は高いが成績が芳しくないなど、授業の満足度と学生の成績が必ずしも連動していないデータも存在していることから、学生の満足度の内容が多様であることも考慮しておく必要があると思いました。

今回の取り組みでは、授業の難易度と満足度などの連関についても議論がなされました。授業の満足度/充実度と相関がある項目を見出すことが授業改善につながると考えられます。生命工学科においても、理解度の向上には、授業の方向性や動機づけが重要であり、学生が常に到達目標が達成できているかどうかに関心を持つ必要があることが議論されました。また、将来社会で授業内容の知識や概念を活用する重要性についても説明する必要があることを確認しました。社会に対応するためには授業の難易度の保証も重要で、生命工学科に関わる食品やバイオなどの資格試験を目指すことも、その指標として有用であると考えられます。

最後に、「PDCAサイクルの疎かになりがちでCAに重点を」という説明を受け、授業アンケートの評価(C)が授業改善(A)に重要であることを再確認することができました。今後も、授業アンケートを、教員へのフィードバックのみに終わらせるのではなく、学生の授業における目的意識の向上、知識や技術の修得を強めるプロセスとして活用したいと思いました。膨大な報告書にあるさまざまな項目を自身の授業にどのように導入し展開していけるかが、私に課せられた次のミッションと捉えています。

## 初任教員向けプログラムを実施しました

2017年度初任教員向けプログラム 9月1日開催

■テーマ 「授業の基本」ワークショップ

■講師 滋賀県立大学 理事兼副学長 倉茂 好匡氏

■場所 762教室 (大宮キャンパス)

授業アンケートには、学生から「もう少し板書をキレイ (きれい) に書いてほしい」、「先生の声が聞き取りにくい」など、授業担当者に対する様々な要望の書き込みがあります。これらは、教員にとって耳の痛い内容ですが、授業に熱意がこもるあまりについ忘れがちなことであることは間違いありません。

本学では、先生方により良い授業を展開していただきたいとの思いから、隔年で「授業の基本」と題した初任教員向けワークショップを滋賀県立大学理事兼副学長の倉茂好匡先生を講師にお迎えし開催しています。

このワークショップは、関西地区FD連絡協議会との共催事業として他大学にも公開し、今年で4回目の開催となりました。本学からは2016・2017年度に着任された教員19名、当該協議会加盟大学からは教員8名 (大阪成蹊大学、大阪薬科大学、大阪保健医療大学、姫路獨協大学、関西女子短期大学、千里金蘭大学)、合計27名が参加され、熱心に受講されていました。

受講者は、第1・2講の「授業の基本 ①-基本の基本- ②-授業展開上の民-」で、授業の準備・導入・展開の大切さやチョークの使い方、黒板の板書・話し方などを学び、その後、第3講の「授業づくりワークショップ」で、5班に分かれグループワークを行い、5分間のミニ授業を発表しました。

講師から講評が行われ、その結果、日頃感じておられる疑問の解消あるいは改善の糸口をつかんでいたものと拝察する次第です。



講師による悪い授業例の見本



板書の練習



グループワークの様子

### 「初任教員向けプログラム」参加者から寄せられた感想を紹介します

#### <学内参加者>

- 授業に学生を参加させる事の必要性が良く分かった。学生を寝させない工夫、ゲームをさせない工夫が必要と実感した。
- すぐに実践に活かすことができるスキルを基本から教えていただいたので、大変勉強になった。教材研究のポイントだけでなく、実践の場を設けていただき、身を持って習得することができた。
- 具体的な知識だけでなくテクニックが多く盛り込まれていて非常にためになった。また、発声法やチョークの持ち方など、すぐに使える内容が入っていた点も良かった。
- 他大学の教員と受講できた点が良かった。
- 教材研究や発問のやり方など今後活かしていけそうな方法を色々な先生方の授業を通して理解できたのが良かった。
- 今まで自然に実践していたこと、実践していなかったことなどを体系的に捉え学ぶことができた。
- 良い授業、悪い授業の具体例を見ることができ、とても参考になった。特に自分は数学的な内容を教えているので、そのような分野でのグループワークや発問など授業展開について勉強になった。

#### <学外参加者>

- 普段授業の中で疑問や不安に感じていたことを倉茂先生の講義で確認することができ、有意義な研修だった。
- 授業の基本を理解することが出来ました。特に導入 (つかみ) の大切さを感じた。
- 発問する上で「学生の経験を想起させる具体的なものがよい。」は、自分がこれまで行ってきた発問の多くは、知識の確認が多かったため、発問の仕方にバリエーションを増やせると思った
- 自分の授業の悪いところを指摘していただいたようだった。これから授業を考え直していきたい。
- 基本中の基本が分かって良かった。前期の授業で良くない例を自分をしていたので、即修正できる内容であった。
- 悪い例、良い例と具体的に教えていただき、授業の経験がほとんどない自分でも、分かりやすく学ばせていただいた。
- 実際の授業展開のヒントになった。また、グループワークにより、具体的なことが理解できた。

### 寄稿 (2) 「初任教員向けプログラムに参加して」



知的財産学部知的財産学科  
教授

西井 光治

初任教員向けプログラムに参加し、滋賀県立大学 理事兼副学長の倉茂好匡先生の「授業の基本」に関するお話を拝聴させていただきました。大変参考になりました。

最初に、授業展開の基本についての話をお聞きし、「何を話すか」ではなく「どう話すか」の計画を立てることの重要性をあらためて認識しました。20年間、本学を含め大学で非常勤講師をさせていただいておりましたが、振り返ってみれば、どのような講義内容にするか、どうやって講義内容を充実させるか、ということに意識が偏っていたように思います。

また、腹式発声法を採用することや、学生を見渡す視線の在り方、さらには良い板書の例など、講義に際しての様々なノウハウをご教示

いただき、さっそく、後期の講義より実践を試みております。

ワークショップでは、「おいしい味噌汁の作り方」を例に、倉茂先生から授業の「ヤマ (ポイント)」の置き方、「ヤマ」への持って行き方の重要性につき、詳しくご教示いただきました。その上で、「おいしい野菜炒めの作り方」を題材として、「導入部分」「下ごしらえ」「炒め方」「味付け」のいずれかの工程を取り上げ、参加した教員が「ヤマ」にうまく導く講義の展開方法を工夫し、最後に模擬講義を行いました。私の班は「炒め方」を選び、私が代表して模擬講義を行いました。学生を想定した教員との双方向コミュニケーションや、「ヤマ」のクローズアップのさせ方などで、思った以上に苦労しました。

これを受けて、講義の組み立て方、たとえば具体例の見せ方、質問のタイミングと内容、「ヤマ」の明確化とそこへ至るまでの道筋など、これまでどちらかと言えば、十分に準備ができていなかったことを反省し、後期の講義においては、講義の組み立て方にも留意するようになり、少しずつではありますが、自分の講義が変化しているように思います。

今後も、さらなる工夫を加え、学生が最初から最後まで、興味と向学心を持ち、得るものが多い講義となるよう、努力をしていきたいと思っております。

## 教職員研修・学生ワークショップを開催しました

2017年度教職員研修ワークショップ 9月5日・6日開催  
2017年度学生ワークショップ 9月5日開催

- テーマ 「授業に関する問題点—今までの自分を振り返って—」
- 場所 1401・1402教室他(枚方キャンパス)

今年度も枚方キャンパスを会場として、通算6回目となる「教職員研修ワークショップ(WS)」を9月5・6日に、また昨年度に引き続き「学生ワークショップ」を9月5日に開催しました。

本学教職員ファシリテーター13名、学生ファシリテーター(摂南大学)2名が、アドバイザーとしてお迎えしている摂南大学薬学部・安原智久准教授、同・串畑太郎助教のサポートも仰ぎながら、WSの運営を担当しました。

参加者としては、所属学部・学科や部署等から選出された教員18名、職員6名、学生12名、総勢36名が、WSテーマ「授業に関する問題点—今までの自分を振り返って—」を題材に濃密な研修に挑みました。

WSは、参加者の発言をより多く引き出すために、初の試みとして「ワールド・カフェ」を導入し、和気あいあいとした雰囲気ですスタートしました。その後、参加者は「KJ法」、「カリキュラムとは・学習目標とは」、「教育評価とは」、「学習方略とは」、「問題点への対応」のセッションと3班に分かれたグループ討議・プロダクト制作に取り組みました。ファシリテーターの皆さんの熱意ある導きと助言、参加者同士の活発な議論など、日頃、接する機会が少ない他学部・他学科の教員や職員が、膝を突き合わせた教職協働作業の実践で交流も深まり、実り多い研修会となりました。



今年の参加メンバー(最前列は学生参加者)



ワールド・カフェの様子



学生ファシリテーターと串畑先生

### 寄稿(3)「教職員研修ワークショップに参加して」



情報科学部情報ネットワーク学科  
准教授

矢野 浩二郎

教職員研修ワークショップは今回初参加ですが、教員、職員、そして部分的ですが学生と一緒に研修を行うところが面白いと思います。私は、様々な学会で大学教育関連ワークショップに参加していますが、大学職員の方をお見かけする機会は少ないため、良い機会だと思いながら参加いたしました。

研修の最初でオリエンテーションがありましたが、参加者を「さん」付けて呼ぶように、というお話がありました。これがとても良かったです。普段、教員は先生と呼ばれることが多いですが、心理的な壁を作ってしまう可能性があります。「さん」づけのおかげか、そのあとのワールドカフェもフランクで楽しい会話になりました。ワールドカフェは、文献や学会発表では知っていましたが、実際に体験するのは今日が初めてでした。今日は、テーマが話題を作りやすいものだったのが良かったと思います。一見するとありきたりなテーマですが、色々と話題が派生して、1ラウンドの時間が過ぎるのがあっという間に感じられました。

さて、今回の研修のメインテーマであるシラバス作成ですが、教職員がチームとして一つのシラバスを作る、ということがとても新鮮でした。私が普段担当している授業は私が一人でシラバスを作りますが、チームとしてシラバスを作ると、シラバスの全体像が見えやすくなり、教授内容の偏りを修正しやすくなります。今回の研修では、学力を「知識、技能、態度」の3つに分けて考えましたが、自分の普段の授業がいかに偏っているか、ということを感じました。

また、今回の研修ではGIO(General Instructive Objective)をSBOs(Specific Behavioral Objectives)に細分化し、そこから教育評価に落とし込んでいくプロセスを体験しましたが、非常に理詰めでわかりやすいやり方だと思いました。もちろん、同じようなことは教員が個人でシラバスを考えるときも頭の中である程度行っているのですが、それではチームとして考えることは出来ません。GIO、SBOsを作り、シラバスの骨組みをチームメンバーに対して見える化するすることで、メンバーが共同して作業が行えるようになりました。実際、SBOsやそれに基づく教育評価を考えていくときに、チーム内で認識の微妙なズレがあることに気づくことも多く、それを作業中に修正することができたため、最終的には全員が納得できるシラバスが完成しました。

最後になりますが、このような貴重な機会をお与えくださいました、ワークショップスタッフの皆様へ感謝いたします。ありがとうございました。

### 寄稿(4)「教職員研修ワークショップに参加して」



ロボティクス&デザイン工学部事務室  
荒木 友輔

今回、教職員研修ワークショップに参加し、普段接する機会のない教職員の方々と教育の基本となる「授業」について議論させていただいたことは、とても貴重な経験となりました。前職である民間企業の営業職より転職して約1年、「教育」や「授業」というものに対して大変に未熟者である私にとっては、今回の研修内容は全て新鮮で、非常に興味深いものでした。大学時代は部活動に明け暮れ、就職も教育関係とは全く縁のない会社へ入社した為、今回の研修はハードなスケジュールと内容に、「ついて行かなくて精一杯だった」というのが素直な感想です。そんな状況でも研修を面白いと思え、少しでも多くのことを吸収して帰りたいと思えたのは、内容もさることながら運営頂きましたスタッフの方々や、参加されていた教職員の方々の熱意があっただけだと思います。

「学生の頃、もっと勉強しておけば良かったな」という感想は多くの方がお持ちになっているのではないかと思います。私もその1人です。初めて勉強や学習が面白く感じられたのは、恥ずかしながら大学2年生でゼミに配属されたときでした。勉強する内容に興味があったというだけではなく、指導して下さった先生が本当に私達ゼミ生のことを考え、熱意を持って真剣に教えてくれていると感じたことがキッカケだったと記憶しています。今回、様々な立場の方々とお話をさせて頂く中で、教員・職員といった枠にとらわれず、本当に多くの方が学生へ授業を通して何を教えるか、何を伝えるかを必死で考えておられるのだということが伝わって参りました。そんな皆様と「授業」というテーマに対して、熱い思いで改善策を模索し、議論を重ねることが出来た今回の研修は、大変勉強になりましたし、また刺激になりました。職員という立場ですべて直接授業を行うわけではありませんが、今回の研修内容を念頭に、少しでも学生の学びに対する意識を刺激できるよう、教員の皆様や学生たちに対して自分が今、何が出来るのかを考えて日々の業務に励みたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、貴重な時間を使い円滑に今回の研修を企画、運営頂きましたスタッフの皆様へ改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

# 2017年度前期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】 ※実施期間：第14回目または第15回目（8週で終了するクォーター科目は第7回目または第8回目）

区分	対象科目	科目数	履修者数	回答者数	回答率 (%)
学部	前期前半クォーター科目	49	2,113	1,647	77.9%
	前期科目	1,460	66,976	49,607	74.1%
	前期後半クォーター科目	39	1,817	1,341	73.8%
大学院	前期前半クォーター科目	21	240	127	52.9%
	前期科目	129	1,600	1,002	62.6%
	前期後半クォーター科目	16	168	100	59.5%
合計	前期前半クォーター科目	70	2,353	1,774	75.4%
	前期科目	1,589	68,576	50,609	73.8%
	前期後半クォーター科目	55	1,985	1,441	72.6%
総計	前期全科目	1,714	72,914	53,824	73.8%

## 【設問項目】

設問内容	選 択 肢
問1 この授業は、「授業のねらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切でなかった 1:まったくなかった
問2 この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5:進んだ 4:ほぼ進んだ 3:どちらとも言えない 2:あまり進まなかった 1:まったく進まなかった
問3 この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問4 この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問5 この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問6 この授業の進行度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5:適切であった 4:ほぼ適切であった 3:どちらとも言えない 2:あまり適切ではなかった 1:まったく適切ではなかった
問7 あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5:100%~90% 4:90%未満~80% 3:80%未満~70% 2:70%未満~60% 1:60%未満
問8 この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成（準備）に何時間かけましたか？	5:3時間以上 4:2時間台 3:1時間台 2:30分~1時間 1:30分未満
問9 総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:まったくそう思わない
問10 この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述

## 【集計結果】 ※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	
工 学 部	都市デザイン工学科	68	4.13	4.18	3.89	3.89	3.92	3.96	3.21	2.98	3.93	
	空間デザイン学科	47	4.33	4.32	4.13	4.19	4.19	4.17	3.40	2.62	4.21	
	建築学科	71	4.34	4.32	4.07	4.16	4.14	4.15	3.34	2.87	4.26	
	機械工学科	72	4.29	4.31	4.06	4.10	4.16	4.14	3.29	2.68	4.16	
	ロボット工学科	(前期前半クォーター科目)	20	4.47	4.46	4.26	4.39	4.27	4.27	3.28	2.44	4.36
		(前期後半クォーター科目)	13	4.45	4.54	4.23	4.31	4.29	4.31	3.43	3.11	4.40
	電気電子システム工学科	(前期前半クォーター科目)	14	4.20	4.19	3.96	4.04	3.97	3.97	2.97	2.43	4.09
		(前期後半クォーター科目)	60	4.31	4.33	4.00	4.06	4.06	4.09	3.13	2.74	4.15
	電子情報通信工学科	(前期前半クォーター科目)	54	4.20	4.24	3.91	3.99	4.02	3.97	2.99	2.79	3.99
		(前期後半クォーター科目)	2	4.54	4.54	4.31	4.31	4.15	4.15	3.46	2.85	4.38
	応用化学科	57	4.45	4.47	4.10	4.16	4.22	4.21	3.06	3.01	4.24	
	環境工学科	39	4.13	4.16	3.88	3.93	3.92	3.96	3.26	2.86	3.95	
	生命工学科	46	4.27	4.27	4.02	4.04	4.06	4.05	3.38	2.79	4.03	
	共通科目	83	4.23	4.27	4.03	4.00	4.13	4.07	2.90	2.70	4.00	
	その他連携科目	11	4.22	4.27	4.07	4.15	4.13	4.12	3.60	1.74	3.93	
	キャリア形成の基礎	193	4.32	4.38	4.11	4.14	4.17	4.16	3.42	2.19	4.04	
	工学の基礎	(前期前半クォーター科目)	5	4.25	4.00	4.50	4.25	4.25	4.25	2.75	2.50	4.25
		(前期後半クォーター科目)	157	4.25	4.32	3.97	3.99	4.08	4.06	3.41	2.50	4.00
	数理学と教育	6	4.27	4.29	4.18	4.27	4.28	4.21	3.30	2.20	4.14	
	24	4.43	4.41	4.23	4.31	4.27	4.31	3.22	2.48	4.28		
ロボティクス&デザイン工学部	ロボット工学科	(前期前半クォーター科目)	1	3.82	3.06	3.19	3.28	3.38	3.22	2.24	2.36	3.51
	(前期後半クォーター科目)	1	4.27	4.17	4.06	4.09	4.10	4.02	3.12	2.73	4.10	
	システムデザイン工学科	(前期前半クォーター科目)	2	4.03	3.70	3.45	3.73	3.93	3.67	2.66	1.98	3.83
	(前期後半クォーター科目)	1	4.05	3.94	3.90	3.94	3.93	3.86	2.75	2.55	3.89	
	空間デザイン学科	4	4.33	4.26	3.81	3.92	3.85	3.96	3.34	3.77	4.42	
	(前期前半クォーター科目)	4	4.13	4.11	3.99	4.05	3.83	3.99	3.12	2.14	3.98	
	共通教養科目	(前期後半クォーター科目)	15	4.23	4.27	4.00	4.04	4.01	3.99	3.45	1.96	3.91
	(前期前半クォーター科目)	4	4.07	4.06	3.96	4.00	3.93	3.99	3.20	2.58	3.90	
	(前期前半クォーター科目)	13	4.07	4.16	3.59	3.76	3.75	3.72	2.85	2.39	3.82	
	工学関連科目	2	4.44	4.63	4.19	4.18	4.14	4.22	3.62	3.15	4.12	
(前期後半クォーター科目)	8	4.31	4.34	4.18	4.21	4.22	4.23	3.48	2.55	4.17		
専門横断科目	3	3.92	4.04	3.41	3.52	3.74	3.55	2.81	2.74	3.74		
(前期後半クォーター科目)	3	3.86	3.83	3.64	3.63	3.66	3.64	3.05	2.03	3.55		
情報科学部	コンピュータ科学科	37	4.14	4.19	3.76	3.83	3.97	3.89	2.93	2.70	3.82	
	情報システム学科	35	4.23	4.27	3.92	3.96	4.05	4.01	3.13	2.58	3.99	
	情報メディア学科	34	4.09	4.14	3.70	3.77	3.89	3.83	2.98	2.91	3.85	
	情報ネットワーク学科	34	4.13	4.18	3.81	3.83	3.95	3.87	2.86	2.79	3.84	
	共通科目	147	4.17	4.17	3.92	3.95	3.97	3.99	3.08	2.28	3.91	
知的財産学部	(前期前半クォーター科目)	2	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	3.00	4.50	4.50	
	専門科目	21	4.32	4.28	4.32	4.12	4.12	4.28	3.48	3.28	4.28	
	(前期前半クォーター科目)	1	5.00	5.00	4.00	4.50	4.50	4.00	4.00	3.50	4.00	
	基礎教育科目	18	4.35	4.47	4.29	4.24	4.29	4.35	3.76	3.18	4.35	
	導入領域	9	4.46	4.52	4.26	4.33	4.35	4.35	3.63	2.90	4.36	
	教養領域	38	4.22	4.25	3.97	4.01	4.10	4.08	3.24	2.64	3.95	
	専門領域	28	4.27	4.26	4.05	4.08	4.10	4.11	3.25	2.72	4.04	
	展開領域	13	4.42	4.38	4.24	4.34	4.25	4.27	3.49	2.85	4.27	
	その他連携領域	(前期前半クォーター科目)	1	4.51	4.71	4.20	4.02	4.18	4.31	3.57	3.35	4.18
	(前期後半クォーター科目)	2	4.68	4.58	4.53	4.42	4.32	4.37	3.79	2.74	4.47	
教 職 科 目	25	4.69	4.66	4.57	4.67	4.63	4.61	3.47	2.56	4.65		
平均 (合計)	(前期前半クォーター科目)	49	4.18	4.15	3.81	3.95	3.92	3.89	2.97	2.36	3.98	
	(前期後半クォーター科目)	1,460	4.25	4.29	3.98	4.03	4.07	4.06	3.24	2.59	4.03	
	(前期後半クォーター科目)	39	4.15	4.14	3.99	4.03	4.01	4.00	3.17	2.42	3.99	
総 計	1,548	4.25	4.28	3.98	4.02	4.07	4.06	3.23	2.58	4.03		

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課  
TEL.06-6954-4083  
FAX.06-6954-4049  
OIT.FD@joshu.ac.jp

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立ててください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。  
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。